

第2号 稲作管理特報

平成29年4月28日
朝 日 町
黒東地域農業技術者協議会

育苗管理のポイントは換気の徹底です。がっちりとした活力の高い苗に仕上げましょう。また、5月15日中心の田植えと、適正な植付本数や植付深さと浅水管理で、初期分けつが発生を促すとともに、70株/坪植えて穂数の確保に努めましょう。

1. ハウスへ搬出10日目以降の育苗管理 ～高温防止のため、換気に努める～

- ・4月下旬以降の播種は、気温が高いため、搬出直後から換気する。
- ・かん水は、毎朝1回たっぷり行う。
- ・フェーン時など、床土が白く乾いたら、すみやかにかん水する。
- ・田植え1週間前頃を目安に、夜間もハウスを開け、外気に慣らす。ただし、気温が5℃以下になると予想される場合は閉める。
- ・「ばか苗」は必ず抜き取り、抜き取った苗は放置せずに廃棄する。

搬出後の温度管理の目安

温 度	 昼	25℃以下
	 夜	10℃以上

2. 代かき ～ 除草効果を高める ～

- ・稲わらをしっかりすき込むとともに、ほ場の均平に努める。
- ・雑草の発生が早いため、代かきは田植えの2～4日前に行う。
- ・代かき後の濁り水は、ほ場外に流さない。

3. 苗箱施薬剤の散布 ～ 苗箱施薬剤は、除草剤と間違えないよう散布する ～

- ・田植え3日前～田植え当日に、薬剤を均一に散布（1箱当たり50gを厳守）。

早生品種（「てんたかく」）	エバーゴールド箱粒剤
早生以外の品種（「コシヒカリ」など）	ルーチントレス箱粒剤

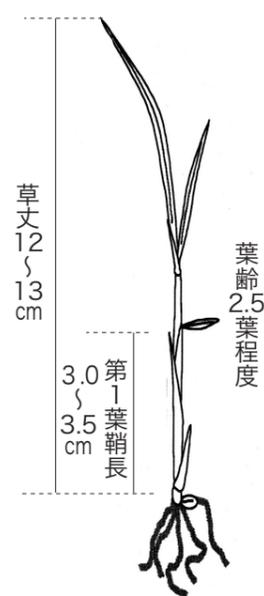
- ・散布後は苗に付いた薬剤を払い落とし、軽く水をかける。
- ・育苗後に育苗ハウスで野菜を栽培する場合、ハウス内での散布は行わない。

4. 基 肥 ～ 適正な基肥量を施用する ～

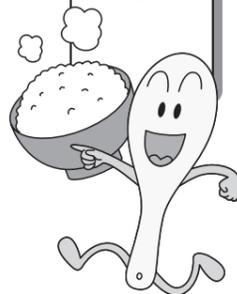
施肥体系	肥 料 名	施用量 (kg/10a)
一発体系	Lpssコシヒカリ1号または2号	38 (側条)
分施肥体系	BB基肥206号	30 (側条)

- ・春に堆肥1t/10a以上散布したほ場は、基肥の施用量を1～2割減肥する。

目標とする苗の姿



70株植えと浅水管理で「穂数型稲」へ！

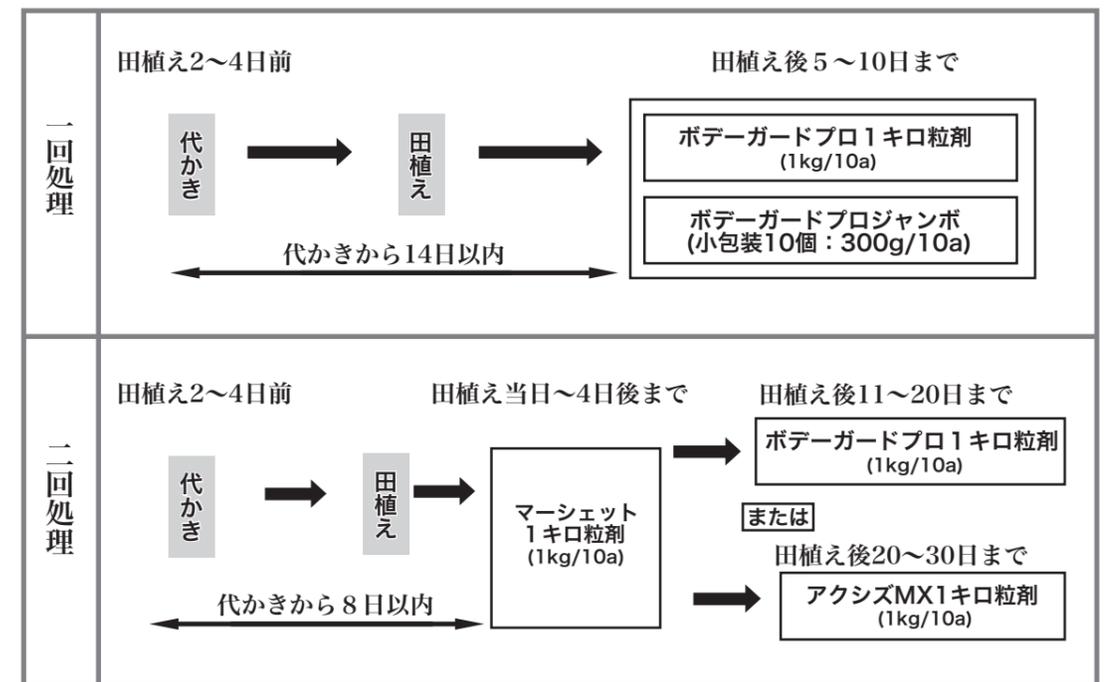


5. 田 植 え ～ 適正な植付けと水管理で、穂数の確保に努める ～

- ・栽植株数は坪当たり70株とし、穂数の確保に努める。
- ・田植え時は、肥料の落ち具合を必ず確認する。
- ・植付深さは3cm、植付本数は株当たり3～4本となるように調整する。
- ・田植え直後はやや深水とし、活着後は2～3cm程度の浅水管理に切り替え分けつの発生を促す。
- ・入水は朝または夕方に行い、日中は水を止めて田水温の上昇に努める。

6. 除草剤の散布 ～ 使用方法を厳守し、適期に散布する ～

- ・散布前にたっぷり入水し、5日間は止め水のうえ、たん水状態を保ちますが、水持ちの悪いほ場は、ゆっくりと水を入れ、田面が露出しないようにしましょう。また、散布後7日間は落水やかけ流しは行わない。



<マーシエット1キロ粒剤を田植え同時処理する場合は、薬害が発生しやすいので、次のことに注意する>

- ①代かきから8日以内に田植えする。
- ②漏水の多いほ場では使用しない。
- ③軟弱苗の場合は、田植え同時処理は控える。
- ④極端な浅植えにならないようにする。
- ⑤田植え後は、直ちに入水する。